

国登録有形文化財（建造物）



KAWASAKI CITY

川崎河港水門



川崎市

川崎河港水門

所在河川名	一級河川多摩川
所在地	川崎市川崎区港町 66 番地 (多摩川右岸 4.9km 付近)
管理者	川崎市

歴史的経緯 及び伝承

多摩川は、古来より水運に利用されてきたが、川崎市においても例外ではなく、第一次世界大戦による好景気の中で、足りなくなった工場用地の拡大を図るため、運河・港湾計画を立てました。

河港水門は、この計画の一環として将来の発展に備えるべく、当時、多摩川改修事務所長であった内務技師金森誠之の設計により、大正15年11月に着工、1年半後の昭和3年3月に完成しました。

この河港水門は、2本のタワーと、タワーをつなぐ梁、そしてゲートによって構成されています。タワー頭頂部には、籐に溢れんばかりに盛られた、当時の川崎の名産物であった梨や葡萄・桃をあしらった巨大な飾りが施され、また、現存では残っていませんが、タワーをつなぐ梁の側面には、レリーフ状のエジプト様式の舟が描かれており、当時の金額で54万円を掛けて造られました。

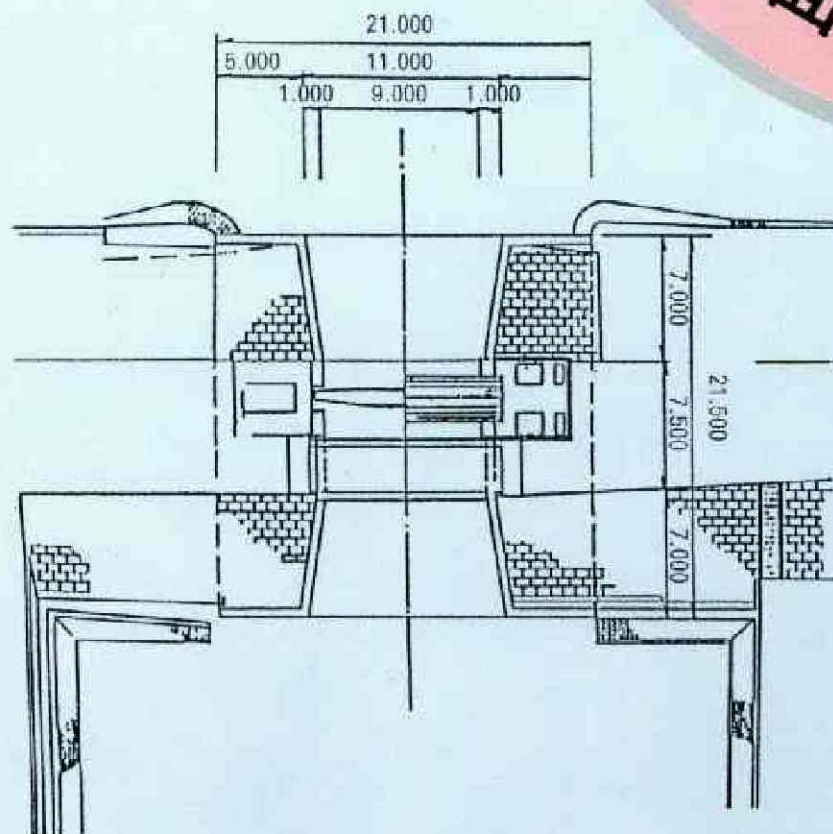
その後、運河・河港計画は、現在の川崎区を対角線に横切る大運河計画となって、昭和10年11月に運河幅員33~40mの都市計画事業として内務省の認可を得ましたが、道路のような建築制限がないため、計画予定地内に工場や住宅が建てられ、また、戦時体制への突入など、社会情勢の変化から昭和18年3月に廃止され、幻の大運河計画となりました。

しかし、わが国で最初の河港水門は、幻の大運河計画のシンボルとして、現在でも、主として千葉方面からの砂利(月3,000t)の陸揚げ施設として、1日数隻の砂利運搬船の出入りに利用されています。

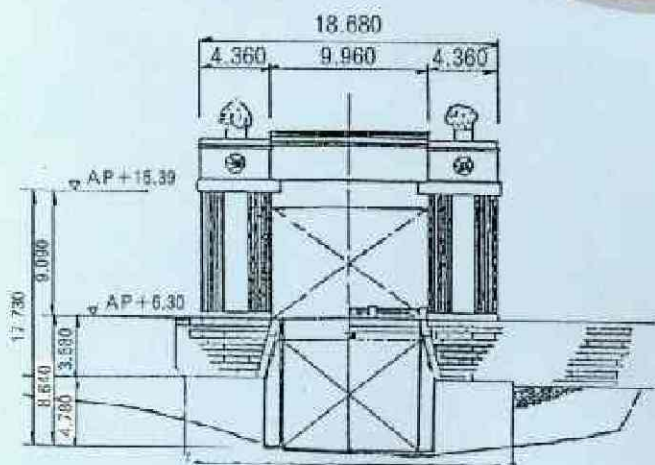
また、この河港水門は平成10年に、国の登録有形文化財(建造物)に登録されています。



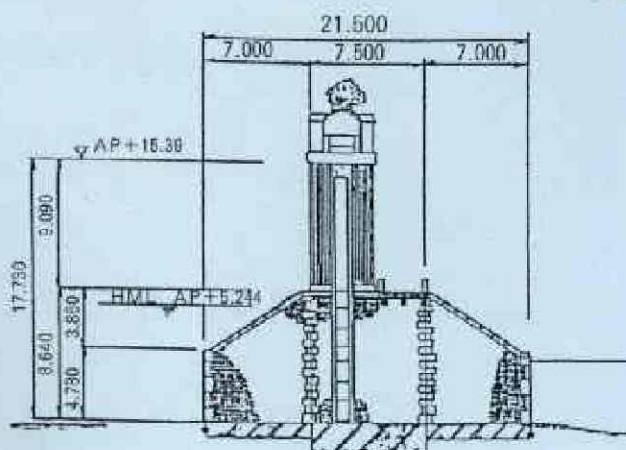
平面图



正面图



侧面图





川崎市建設局土木建設部河川課
川崎市川崎区宮本町1番地
☎044-200-2111 (代表)